

ESLO コーパスを用いたフランス語話し言葉における 舌打ち音の機能的分析

森田 美里

(大阪府立大学非常勤)

本研究は、フランス語母語話者には聞き流されてはいるが、フランス語談話において頻繁に現れる「舌打ち音」(歯または歯茎吸着音)に焦点を当てたものである。この音は、これまで単なる個人的な癖や雑音として処理され、ほとんど研究されてこなかった。しかし筆者は、この音に談話機能があることを発見した。本発表では、生起環境、用法について詳細に記述し、その機能を明らかにする。研究方法としては、フランス語圏屈指の大規模フランス語話し言葉コーパスである ESLO のモノログ(約 3 時間分の講演)、ダイアログ(約 6 時間分のインタビュー)データから抽出した用例を基に考察する。

フランス語の話し言葉において舌打ち音は、モノログ、ダイアログに関係なく現れ、(1) のような euh, hm というフィラーや、(2) のように発話をつなぐ *alors, et, mais, donc* という語との共起頻度が高い。談話や発話の区切りの部分で現れ、ダイアログでは (3) のように質問に答える際、または同意を表す際の出現頻度が高い。(例文内の[!]は舌打ち音を指す。)

(1) on veut se référer euh [!] aux Très Riches Heures du Duc de Berry

(2) donc un certain nombre de privilèges et autres [!] donc voilà tout ce qu'on peut dire

(3) A : Est-ce que tu as des frères et soeurs ?

B : [!] Ouais j'ai une petite soeur de dix-huit ans

(1) は「話者の情報処理および言語表現処理状況の表出機能」、(2) は「シンタックスによって調整された談話構成」、(3) は「働きかけの機能」の舌打ち音である。「話者の情報処理および言語表現処理状況の表出機能」には「語あるいは表現の検索」、「内容検索」、「ためらい」という用法、「シンタックスによって調整された談話構成機能」には「境界設定(話題転換、開始、終了、順序)」、「展開(対立、提示表現、説明、訂正、添加、結論)」という用法、「働きかけの機能」には「判断」、「質問/答え」、「確認」、「婉曲語法」という用法がある。

田窪 (2010) はフィラーを含む感動詞類を「音声的身振り」という語で説明し、通常は心的な情報処理時に非意図的に発せられるものではあるが、意図的にも発することができるものとしている。発表者は、フランス語談話における舌打ち音が意図的には発することのできない「音声的身振り」であること、語彙的でもなく、非語彙的でもない身体的表現の中で最も発声が大きいもの、かつ言語的表現の中で最も発声が小さいペリレキシック(péri-lexique: 語彙の周辺) 的要素であることを主張する。